

# 2024年3月期 第1四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社  
<https://www.teac.co.jp/jp/>  
証券コード：6803

2023年8月4日

## 2024/03期 Q1 業績概要

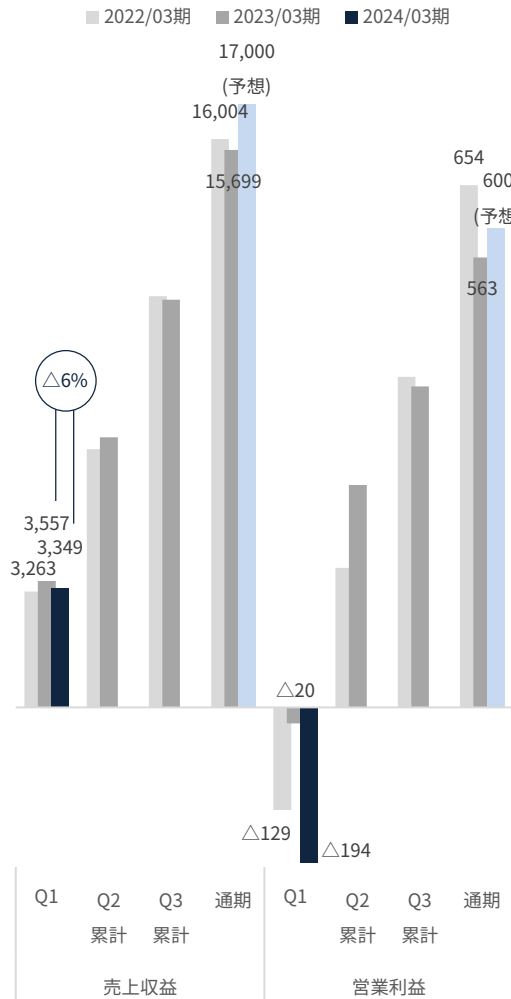
### ■ 2024/03期 第1四半期は、前年同期比減収減益（赤字拡大）

	2023/03期 Q1	2024/03期 Q1	前年同期比	(百万円)
売上収益	3,557	3,349	△ 208 (△ 5.8%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>BtoB事業の成長が、その他に区分する産業用光ドライブ事業及びEMS事業の縮小を補えず減収</li> </ul>
営業利益（△損失）	△ 20	△ 194	△ 174 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>円安進行による原価上昇に加え、人的資本やマーケティング活動への投資により営業損失拡大</li> </ul>
税引前利益（△損失）	△ 104	△ 389	△ 284 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>138百万円の為替差損が発生し前年同期比損失拡大               <ul style="list-style-type: none"> <li>詳細は「<a href="#">金融費用（為替差損）の計上に関するお知らせ</a>」（2023年8月4日発表）をご参照ください</li> </ul> </li> </ul>
四半期利益（△損失）	△ 109	△ 400	△ 291 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年同期比損失拡大</li> </ul>
資本合計	2,686	2,985	+ 299 (+ 11.1%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年同期比増</li> </ul>
自己資本比率	24.8%	25.5%	+ 0.7ppt	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年同期比増</li> </ul>
フリー キャッシュフロー	△ 508	△ 149	+ 359	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年同期比増も、四半期損失計上により営業キャッシュフローはマイナス</li> </ul>

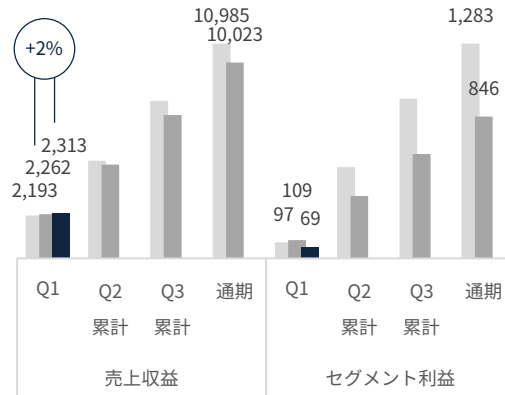
# 2024/03期 Q1 セグメント別業績

(百万円)

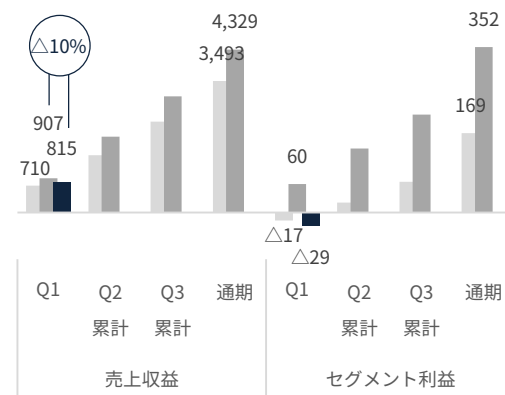
売上収益・営業利益



音響機器事業 売上収益・セグメント利益



情報機器事業 売上収益・セグメント利益



その他

## ハイエンドオーディオ機器 (ESOTERICブランド)

- 前期に導入したターンテーブル、プリアンプ及びパワーアンプ、SACDプレーヤーなどの新製品が継続して堅調に推移、さらに当第1四半期より新たに参入したレコードソフトのビジネスが計画を超過。加えて、米国市場での販売が前年度を大きく上回り、また欧州でも円安影響を受けたことから、全体では前年同期比で増収

## プレミアムオーディオ機器 (TEACブランド)

- 国内販売においてはCDプレーヤーの新製品3機種を上市したに加え、前年度より取扱いを開始した輸入品で収益が改善したが、欧州の販売不振が継続し全体では前年同期比で減収

## 音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)

- BtoB事業においては、設備市場向け製品の販売が堅調に推移した事と業務用デジタルミキサーの海外出荷が本格化した事により販売好調。BtoC事業においては、一部低調な販売となったカテゴリーもあったが、一方でクリエイター向け中高価格帯製品が好調。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体では前年同期比で増収

## 機内エンターテインメント機器

- 国内エアライン向けに機内エンターテインメント用サーバーを出荷、国内市場における導入実績を伸ばしたが、海外顧客向けの保守用部品販売が前年度で終了したことから、結果として前年同期比減収

## 計測機器

- データレコーダーにおいては、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことから、フィールドでの計測作業が再開、官公庁をはじめ各計測分野からの受注が伸長。センサーおよびデジタル指示計においては、今年度に入り、リチウムイオン電池製造装置向けの引合いおよび出荷が好調に推移したが、前年度の好景気の反動で半導体装置市場の需要が減少。その結果、計測機器全体では前年同期比減収

## 医用画像記録再生機器

- 国内市場において前年度末の値上げ前の駆け込み需要が大きく影響し、国内の消化器内視鏡向けレコーダー、および手術画像レコーダー共に低調に推移。一方海外での販売は好調を維持、特に新製品の4KレコーダーのOEM向け出荷が大きく貢献し、前年同期比増収

## ソリューションビジネス

- 受託開発案件の受注が低調であったこと、また前年度好調であった医用向けサーバーの受注が減少したことから前年同期比で減収

- 前年同期比減収減益

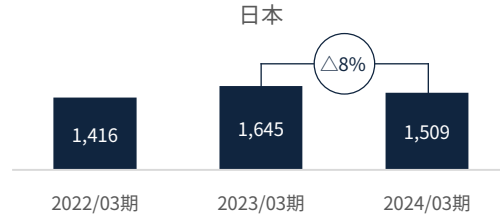
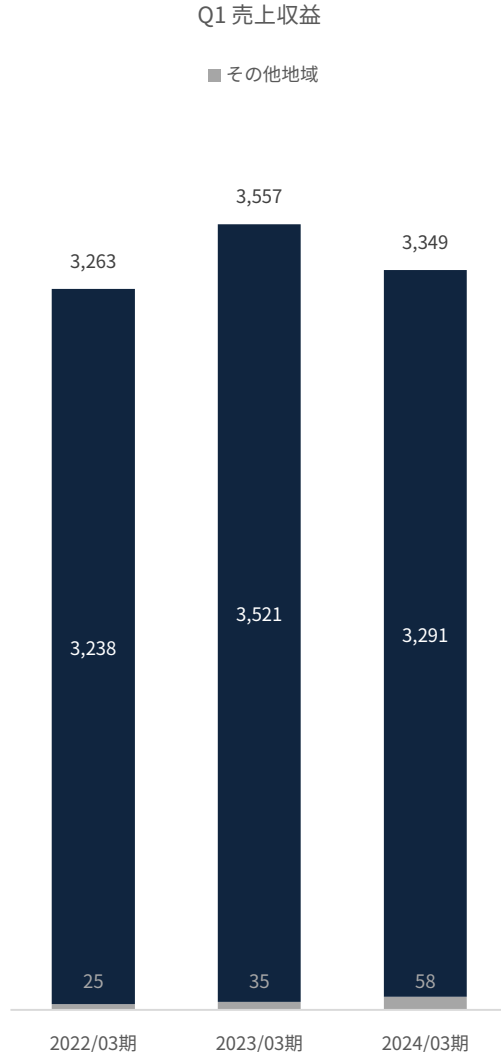
注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

# 2024/03期 Q1 地域別業績

(百万円、+は前年同期比増収、-は同減収)

Q1 売上収益

■ その他地域

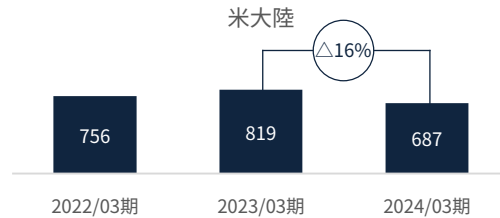


## 音響機器事業

- + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- ハイエンドオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)

## 情報機器事業

- + 機内エンターテインメント機器
- 計測機器、医用画像記録再生機器、ソリューションビジネス

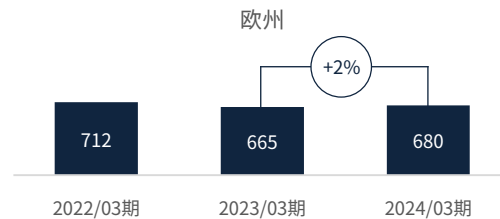


## 音響機器事業

- + ハイエンドオーディオ機器、プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)

## 情報機器事業

- + 医用画像記録再生機器
- 計測機器、機内エンターテインメント機器 (保守用部品)

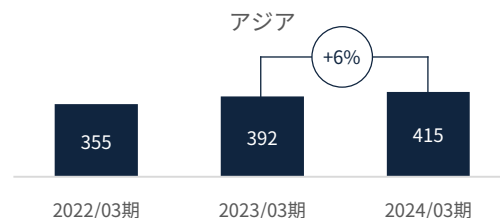


## 音響機器事業

- + ハイエンドオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- プレミアムオーディオ機器

## 情報機器事業

- + 計測機器、医用画像記録再生機器
- 無し



## 音響機器事業

- + 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- ハイエンドオーディオ機器、プレミアムオーディオ機器

## 情報機器事業

- + 計測機器、医用画像記録再生機器
- 無し

註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」を含む

# 2024/03期 Q1 セグメント別・地域別構成比

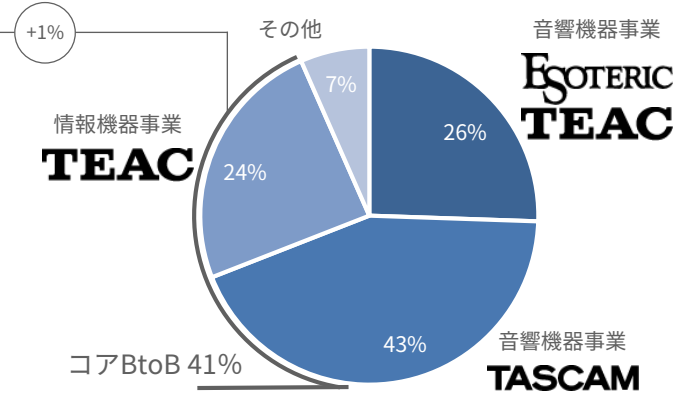
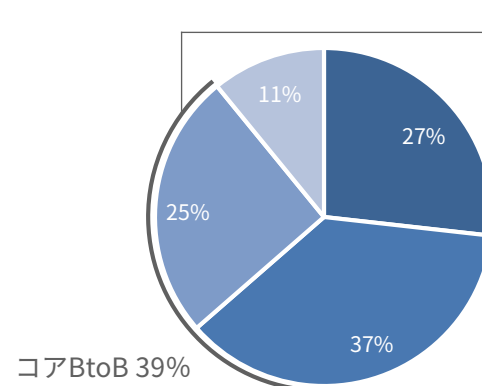
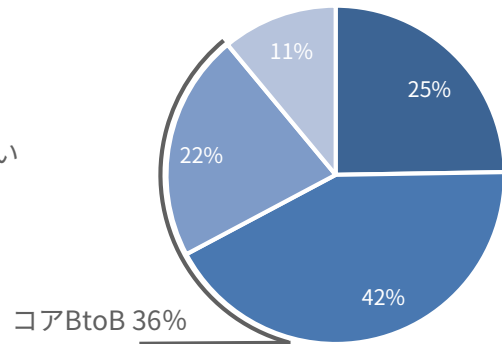
2022/03期 Q1 売上収益  
3,263百万円

2023/03期 Q1 売上収益  
3,557百万円

2024/03期 Q1 売上収益  
3,349百万円

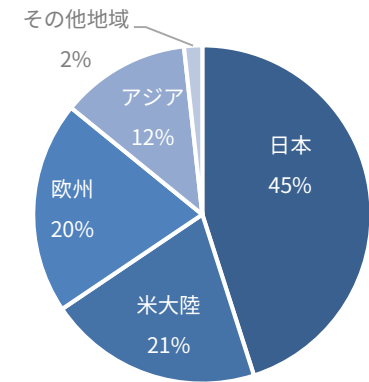
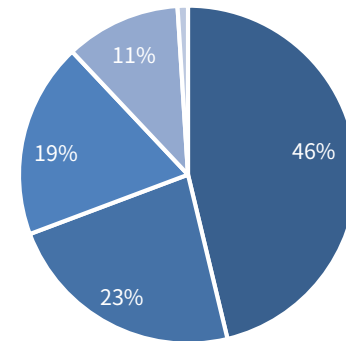
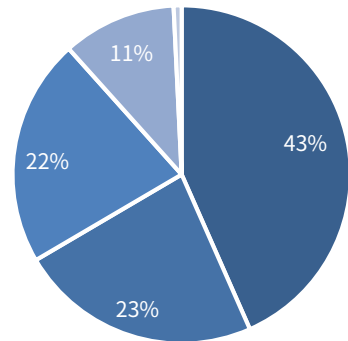
## ■ セグメント別

- BtoB事業は+ 1%増収、構成比も+ 2ppt増加
- その他事業は縮小に伴い構成比は△ 4ppt減



## ■ 地域別

- アジアは成長継続し、構成比も+ 1ppt増加
- 米大陸はその他事業の縮小影響を受け、構成比は△ 2ppt減

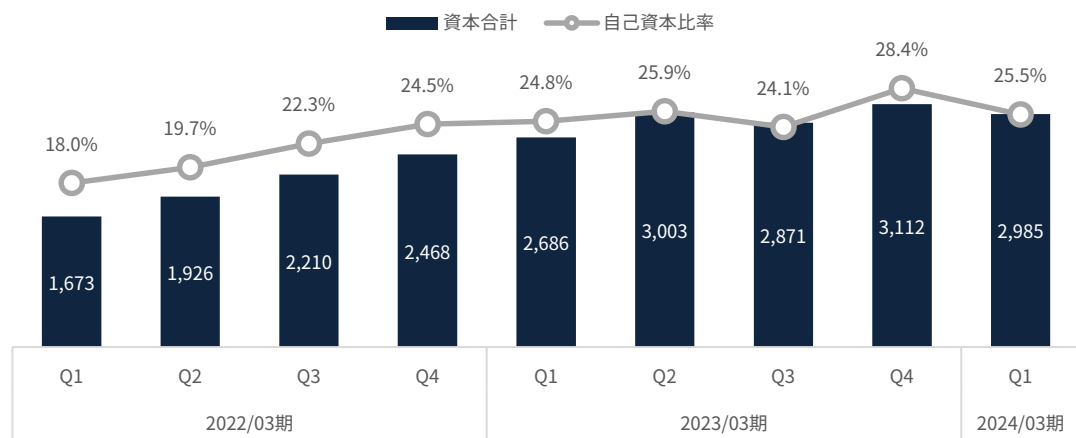


註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

# 2024/03期 Q1 自己資本比率・フリーキャッシュフロー

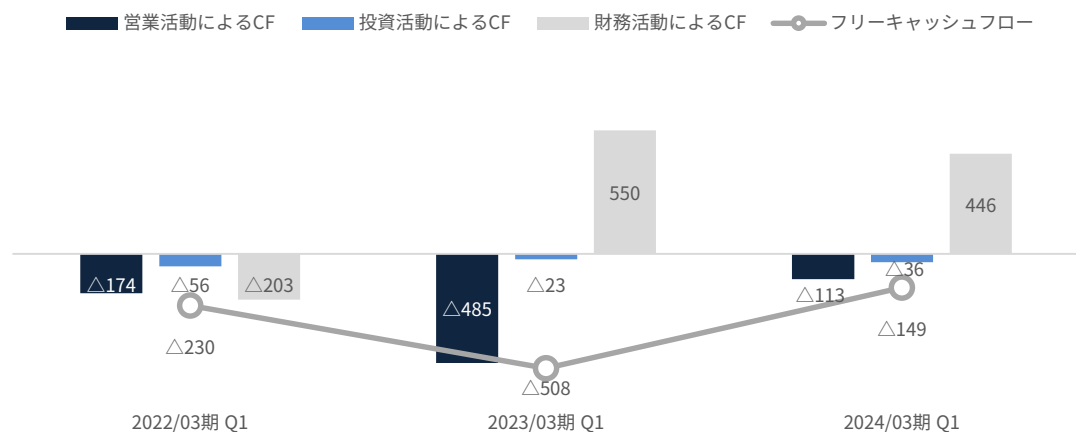
(百万円)

## 自己資本比率



- 資本合計：前年同期比+ 299百万円 (+ 11.1%) 増、前期末比△127百万円 (△ 4.1%) 減
- 自己資本比率：前年同期比+ 0.7ppt増、前期末比△ 2.9ppt減

## フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：前年同期比+ 359百万円良化も△ 149百万円のマイナス

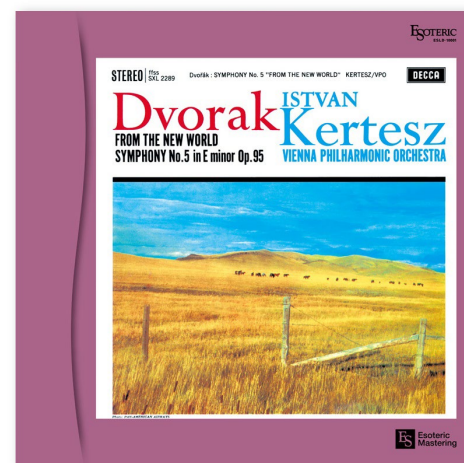
■ 2024/03期 通期予想は、前回予想（2023年5月発表）を据え置く

	2023/03期	2024/03期 予想	前期比	
				(百万円)
売上収益	15,699	17,000	+ 1,301 (+ 8.3%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品の適時導入と製品ポートフォリオ再編の加速、当社が比較優位性を持つ製品の価格改定の実施、主要市場における販売体制の再構築を進め増収を計画</li> </ul>
営業利益	563	600	+ 37 (+ 6.5%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフレ、投資停滞、流通在庫の滞留などのリスクに対応すべく、デジタルとリアル両面でマーケティング投資増を計画</li> </ul>
税引前利益	341	400	+ 59 (+ 17.2%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>増益計画</li> </ul>
当期利益	305	320	+ 15 (+ 4.8%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>増益計画</li> </ul>
資本合計	3,112	-	-	
自己資本比率	28.4%	-	-	
フリー キャッシュフロー	+ 192	-	-	

## ■ 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器

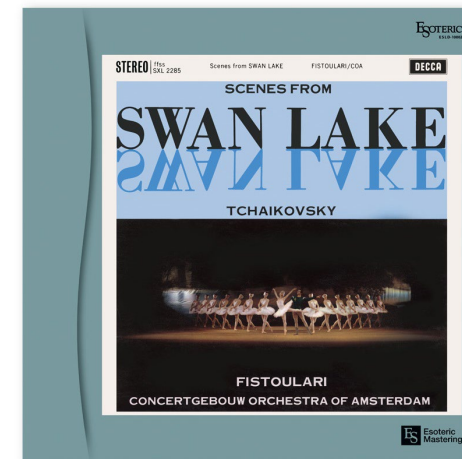
- 業務用自社ドライブをベースにした新設計のCDドライブを搭載した、Reference500シリーズ待望のCDトランスポート『PD-505T』を発売

- 「名盤復刻シリーズ」アナログレコード2作品を発売  
ESOTERIC Masteringによるアナログ芸術への新たな挑戦



ESLD-10001 『DVOŘÁK From the New World』

ESLD-10002 『TCHAIKOVSKY Swan Lake』





## ■ 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器

- 動画クリエイター待望の32ビットフロート録音に対応した超コンパクトな次世代型ピンマイク フィールドレコーダー『DR-10L Pro』を発売

2017年に販売開始し国内外の動画クリエイターに広く愛用された『DR-10L』の小さなサイズ感とシンプルな操作性はそのままに、音割れせず収録が可能な32ビットフロート録音機能を搭載し、わずらわしいゲイン設定を不要に。また、最長24.5時間の乾電池駆動を実現し、長時間にわたる録音でも頻繁な電池交換も不要となり、忙しい撮影現場でのクリエイターの作業負担を低減。更に、別売のBluetooth®アダプター『AK-BT1』を装着することで、スマートフォンからのリモート操作や、カメラなど本機以外の収録機器とのワイヤレスタイムコード同期に対応するなど、撮影現場のワークフローを大幅に改善する動画クリエイター待望の次世代型フィールドレコーダー

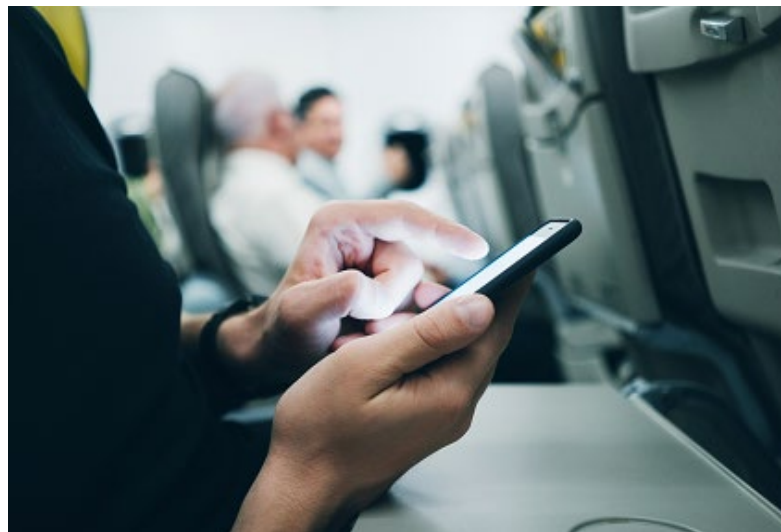


## ■ 情報機器事業 機内エンターテインメント

- ・ 非接触型の機内エンターテインメントサーバー、『PortaStream™PS-V50』を株式会社ソラシドエアへ納入

ソラシドエアが再開した機内エンターテインメントサービス「ソラタイム」のコンテンツ配信サーバーとして、『PortaStream™PS-V50』を納入。2023年7月1日から全路線で運用開始。ソラシドエアは、動画や電子書籍・オーディオ・フライトマップなどに加え、九州・沖縄の魅力を紹介する地域に根付いたコンテンツも配信することで、乗客に楽しい空の旅が提供できるよう、PortaStreamの導入効果に期待を寄せている

**Solaseed Air** 



『PortaStream™PS-V50』

# 財務データシート (IFRS)

		2022/03期				2023/03期				2024/03期					
		(百万円)	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	
貸借対照表	流動資産		7,180	7,723	7,939	8,210	9,042	9,886	9,259	8,351	9,027				
		現金及び現金同等物	1,440	955	789	1,304	1,353	1,739	1,221	1,196	1,553				
		営業債権及びその他の債権	2,167	2,750	2,877	3,154	2,799	2,871	2,809	2,925	2,671				
		棚卸資産	3,211	3,651	3,893	3,400	4,566	4,998	4,877	3,862	4,512				
		その他の流動資産	362	366	381	352	324	278	352	368	291				
		非流動資産	2,119	2,043	1,955	1,870	1,804	1,720	2,634	2,607	2,673				
		資産合計	9,299	9,766	9,894	10,081	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700				
		流動負債	5,833	5,845	5,822	5,852	6,266	6,430	6,161	5,316	6,242				
			社債及び借入金	2,571	2,588	2,574	2,467	2,904	3,030	2,900	2,042	2,749			
			リース負債	352	368	371	312	232	164	264	448	519			
			営業債務及びその他の債務	1,651	1,559	1,557	1,458	1,759	1,798	1,646	1,281	1,615			
			その他の流動負債	1,258	1,329	1,320	1,615	1,371	1,439	1,351	1,544	1,358			
		非流動負債	1,794	1,995	1,862	1,761	1,893	2,172	2,861	2,531	2,474				
			社債及び借入金	332	697	686	619	820	1,189	1,113	1,083	977			
			リース負債	259	167	92	68	64	42	870	685	790			
			長期未払金	1,096	1,044	991	920	833	793	729	689	622			
			その他の非流動負債	106	86	93	154	177	149	149	75	86			
		負債合計	7,627	7,839	7,685	7,613	8,160	8,603	9,022	7,847	8,715				
		資本合計	1,673	1,926	2,210	2,468	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985				
		親会社の所有者に帰属する持分合計	1,673	1,926	2,210	2,468	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985				
		非支配持分	0	0	0	0	0	0	0	0					
	負債及び資本合計	9,299	9,766	9,894	10,081	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700					
	親会社所有者帰属持分比率	18.0%	19.7%	22.3%	24.5%	24.8%	25.9%	24.1%	28.4%	25.5%					
損益計算書	売上収益	3,263	4,011	4,304	4,426	16,004	3,557	4,044	3,879	4,219	15,699	3,349	3,349		
		音響機器事業	2,193	2,798	3,058	2,935	10,985	2,262	2,531	2,537	2,693	10,023	2,313	2,313	
		情報機器事業	710	813	895	1,076	3,493	907	1,108	1,075	1,238	4,329	815	815	
		その他	360	400	352	415	1,527	388	405	267	288	1,347	221	221	
		セグメント利益	115	533	474	501	1,623	226	485	345	398	1,453	75	75	
			音響機器事業	97	448	410	329	1,283	109	265	249	224	846	69	69
			情報機器事業	△17	38	45	103	169	60	76	72	144	352	△29	△29
			その他	36	47	20	69	171	57	144	24	30	255	35	35
		個別開示項目前営業利益	△129	304	239	240	654	△20	299	123	162	563	△194	△194	
		個別開示項目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		営業利益	△129	304	239	240	654	△20	299	123	162	563	△194	△194	
		税引前利益	△167	219	198	231	481	△104	138	182	126	341	△389	△389	
		親会社の所有者に帰属する当期利益	△174	210	187	168	392	△109	140	150	124	305	△400	△400	
	キャッシュフロー	営業活動によるキャッシュフロー	△174	△751	△36	808	△153	△485	11	△204	972	294	△113	△113	
		投資活動によるキャッシュフロー	△56	△10	△20	△50	△136	△23	△38	△29	△12	△102	△36	△36	
財務活動によるキャッシュフロー		△203	283	△126	△253	△299	550	352	△242	△992	△333	446	446		
フリーキャッシュフロー		△230	△761	△56	758	△289	△508	△27	△233	960	192	△149	△149		

注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」を含む

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。